

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 25 年度

事業所番号	2770103782		
法人名	社会福祉法人 関西福祉会		
事業所名	陵東館秀光苑		
所在地	大阪府堺市北区長曾根町1196-6		
自己評価作成日	平成 26年 1月 20日	評価結果市町村受理日	平成 26年 3月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyouCd=2770103782-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 2月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の時間の流れを決めずに、利用者の方がその人らしい生活が送れるよう支援するという事を常に全職員で意識しています。職員からの支援だけでなく、利用者の方がすすんで食後の食器洗いや洗濯たみ、リネンの交換を手伝ってくれるなど、自身の出来る事を行い、役割を持たれており、又、利用者同士で声を掛け合い協力し合う場面もみられます。
職員と利用者だけでなく、家族との関係も絶やさないように、面会時だけでなく、電話を掛けて近況をお伝えしたり、本人と話をしてもらったりと繋がりを大切にしています。職員が支援するだけでなく、利用者、家族みんなで支え合っていくという事を今後も続けていきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は高齢者の社会福祉事業を始めて以来、長い年月にわたって各種の福祉事業を進展させ、地域に貢献し根付いてきています。12年前に開設されたグループホームも、同法人のデイサービスやショートステイの利用者、地域のボランティアなど、地域住民とも一体感があり、行事などを通じて日常的に交流を図っています。職員のチームワークも良く、退職者も少ないことから、家族の信頼も得ています。利用者は優しい職員のサポートを受け、美味しい食事と安心のある医療体制に支えられ、元気で笑顔のある楽しい生活を過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で共に支え合い、地域と共に歩む」という理念を掲げ、利用者が穏やかで、その人らしく生活を送れるよう目標を立てている。理念を実現する為に職員1人1人が意識しながら取り組んでいる。	『「地域の中で共に支えあい、地域と共に歩む。」「ゆったりとした自由な暮らし。」「穏やかで、やすらぎのある暮らし。」「自分でできる喜びを感じる暮らし。」「自分らしさや、誇りを持った暮らし。』を理念と定め、明示しています。職員会議や毎日の業務を通じて職員が方針を共有し、介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族、地域の方と共に支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域推進運営会議を通じて、校区や自治会のイベントがある際には、お誘いを受け、毎回参加している。又、ボランティアや近隣の保育園児の訪問等もあり、地域との交流を図っている。	ホーム開設時より、地域とのつながりを大切にしています。餅つき大会や焼き芋大会等の地域行事への参加、法人行事やホーム独自の行事を通じて、日常的に交流を深めています。また、地域からのボランティア訪問が多く、歌体操・ハーモニカ・フルート等、利用者は職員と一緒に楽しい時間を過ごしています。保育園や小学校からの訪問、中学校の職場体験や福祉専門学校の実習生の受け入れも行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	以前、介護者教室にて地域の方への認知症についての芝居等を行った事があるが、近年は無い為、今後も機会を設けていきたいと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状態やサービスの取り組み、行事等の報告を行い、困難事例があれば意見を求め、その内容を職員会議の際などに参加していない職員へ伝え、全職員が周知し、サービスの向上に生かしている。	運営推進会議は、開催規程を作成し、2カ月に1回開催しています。メンバー構成は、地域包括支援センター所長・民生委員・近隣住民・家族となっています。会議では、利用者の生活状況、行事での様子はスライドを使用し、詳細に報告しています。また、参加者からの意見や要望、助言を得ながら、今後のサービス向上に活かしています。今後の課題として、非常災害時における地域との協力体制について、話し合う予定です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に北区基幹型包括センター所長の出席を仰ぎ、事業所の実情や取り組みを伝えている。又、管理者は毎月、北区のグループホーム協議会へ参加し、情報交換等を行っている。	市や地域包括支援センターとは、報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。管理者は地域のグループホーム協議会に参加し、世話役も務めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束防止委員会を設置しており、日々のケアの中で何が身体拘束にあたるのか等、具体的な項目を挙げ、共通の認識としている。外部研修等の報告や資料の配布も行っている。又、日々のケアを行う中で、気付いた事や疑問に感じた事などは、職員同士で注意し合うよう心掛けている。	職員は、法人の身体拘束防止委員会や高齢者虐待防止委員会で研讃を重ね、意識の向上に努めながら、身体拘束のないケアに取り組んでいます。グループホームの入口扉は職員間で話し合い、日中の時間帯は開錠しています。また、外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に高齢者虐待防止委員会を設置しており、毎月話し合いの場を設けて、実際の事例を挙げ、背景や今後の対応を検討している。虐待に関する資料を回覧したりして改めて自施設の対応や関わり方などを振り返っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や文献、法人からの情報等で学んでいる。機会があれば、研修等に参加し、職員間で周知できるようにしている。又、利用者で後見人をつけている方がおられ、実際に関わりをもちながら、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、時間をかけて丁寧に説明を行い、入所後も面会時等に不安に感じている事や要望などはないか話す機会をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者と個別で話す機会を作ったり、家族の面会時に意見や要望等を気兼ねなく話してもらえるよう心掛けている。又、家族会や行事等を通して、利用者と職員だけでなく、家族との関わりも大切にしている。</p>	<p>「秀光苑たより」は、利用者一人ひとりの暮らしぶりを写真に撮り、3か月に1回利用者家族に送付しています。家族の面会時には、利用者の生活状況や連絡事項を伝え、意見や要望について問いかけています。運営推進会議や家族会の開催により、家族が自然に発言できるよう環境を整えています。また、前回の外部評価結果を受けて、より利用者家族の声を聞くために、「家族アンケート」を実施する予定です。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議や勉強会、または個々に意見や提案を聞く機会を持っている。</p>	<p>職員は、定例の職員会議や日常の業務を通じて、意見や提案をする機会があります。職員のチームワークは良く、退職者もほとんどいない状況です。職員に対する家族の評価も高くなっています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員会議の場において、勤務に関する状況や給与の話しが挙がる事はある。職員側の意見や要望も述べ易い職場環境になってきている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設での勉強会、認知症介護実践者研修をはじめ、常勤、非常勤を含めて外部での研修を受ける機会を設け、知識や意欲の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者として、北区グループホーム協会での会合や勉強会などは行っている。又、研修の際などに他施設の職員と関わりを持ち、情報交換をしたりしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの訴えや要望を傾聴し、受け入れて、援助内容に取り入れるようにしている。直接的な訴えだけでなく、日々の関わりの中で、気持ちや思いを汲み取る事も意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が気遣いせずに、要望や不安に思っている事を話しやすい雰囲気作りに努めている。家族の訴えに対し、職員間で共有し、すぐに対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要な支援は何かを法人全体で話し合い、本人・家族の意向を実現できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が「何か手伝いましょうか」など話してくれ、職員と一緒にしてくれるなど、利用者と職員がお互いに支え合う雰囲気があり、利用者の気持ちに対し、感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には居室や談話室にて一緒にゆったりと過ごせてもらえるように配慮している。又、行事や家族会の際には、家族を招いて、一緒に楽しんでもらえるようにしている。家族と一緒に撮った写真などをアルバムにして居間に置いてあり、いつでも見れるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスに昔からの友人や知人が来られている際には会いに行ったり、面会に来られた際には、職員が本人の近況を伝えたりして、気軽に会いに来てもらえるように取り組んでいる。	併設するデイサービスやショートステイに来所している友人に会いに行くこともあります。また、馴染みの理容師が来訪した際は整髪してもらったり、家族と共に外出したりするなど、馴染みの関係が途切れないように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で協力しながら食器洗いを行ってくれたり、洗濯物をたたむ際には2～3名の方が一緒に手伝ってくれている。日常の中でも、利用者同士で気遣いながら声を掛け合う場面がみられる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、近所に住む家族が訪問し、職員や利用者で談話をしたり、クリーニングを営む家族に依頼を兼ねて接する機会がある。見掛けの際には声を掛け合い、近況などを話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、本人や家族から、これまでの生活歴などを聞き、なるべくこれまで通りの生活に近い形で過ごせるように取り組んでいる。又、日々の暮らしの中での気付きや変化を記録、共有し、1人1人に合わせた支援が行えるように取り組んでいる。	利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努め、聞き取った思い等はケース記録やケアプラン用紙に記録し、情報の共有化に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や思い出話し等を、本人や家族の会話の中から汲み取り、それを元にフェイスシートを作成している。以前に他のサービスを利用されていた際は、その事業所の協力を得て、情報を提供してもらえるようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子をケース記録に記入し、状態の変化や気付きなどを職員で共有している。変化が見られる時などは、その都度カンファレンスを行い、援助方法を検討する。同時にケアプランにも反映させていく。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフが1度に全員集って話し合うという事は難しいが、カンファレンスを何度か行い、なるべく担当スタッフ全員の意見を聞き、ケアプラン作成、更新、モニタリングを実施している。又、家族にもケアプランの説明時だけでなく、日頃より近況を伝えながら、意見や思いを聴き取り、ケアプランに取り入れるようにしている。	現在、利用者の状況は軽度で比較的安定していますが、介護計画は6カ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。定例の職員会議の時や、必要の都度カンファレンスを実施しています。また、モニタリングを行い、家族とも話し合っ介護計画の見直しにつなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や職員会議資料にて、情報を共有し、日々のケアに対する結果を振り返ったり、新たな課題を検討し、その都度ケアプランに取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連帯体制を活かし、法人内にある診療所の内科や整形外科、精神科、歯科等が随時受診可能である。又、かかりつけ医や、希望される医療機関がある場合は、家族の協力も得ながら受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	校区の催しものや地域行事に、その都度参加している。又、近所に住む以前勤めていた職員が時折訪問し、利用者と一緒に談話をしたり、行事の料理作りや飾り作りを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診を要する際には、本人と家族の意向を聞き、希望される病院や、かかりつけ医を受診している。病院受診までは至らない症状でも、自施設の診療所を受診している。外部の病院を受診される際は、家族に確認をとり、家族が職員、またはどちらも付き添っている。	家族の同意を得て、大半の利用者が法人の診療所の医師の医療を受けています。また、法人看護師より週1回、訪問看護も受けています。入居前からのかかりつけの医療機関へ受診する利用者には、家族の協力を得て支援しています。協力医療機関と連携し、夜間や緊急時の対応についても体制を整備しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	既往歴や現在の疾患を把握し、日々の状態や変化を観察している。些細な気づきや変化も記録したり、その都度、看護師へ伝え、必要に応じて医療機関を受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院された際には、看護・介護サマリーを提出して、出来る限り事業所で送っていた生活に近い環境で過ごせるように医療機関に伝えている。入院中も定期的に職員が面会へ行き、状態の把握や、担当医師・看護師と情報交換を行いながら、退院後の対応を検討し、早期の退院受け入れを目指している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>必要を応じてきた時点で、家族と話し合いの場を設け、家族の想いや意向を確認すると同時に、事業所での対応しうる支援方法や対応を伝えている。重度化や状態によっては、家族や本人の意思を尊重しながら、併設する特養を紹介している。</p>	<p>以前、医療関係の職員が配置されていた際は、数例の看取りの実績がありましたが、現状では看取りを実施しない方針です。利用者が重度化した場合、法人全体で対応することを入居時に伝え、了承を得ています。今後、利用者が重度化した場合、できるだけホームでの生活が続けられるよう、状況の変化とともに、利用者や家族、医師、看護師、職員間で話し合いを行い、方針を共有しながら対応していく予定です。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急、急変時の対応や誤嚥、転倒時の対応などをフローチャートで表記し、常に目の届きやすい所に設置している。又、勉強会などを通して、心肺蘇生や AED の使用方法等を学び、実践力を高めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成しており、全職員が把握するようにしている。又、3ヶ月に1回の自主消防避難訓練と半年に1回消防署員立会いの訓練を実施している。非常食の備えや月1回、避難経路や設備の点検も行っている。	年1回、消防署立会いのもと法人全体で消防避難訓練を行い、2ヵ月毎に自主避難訓練を実施しています。災害時の食料と水の備蓄については、法人とホームの双方で備蓄しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションを図る際、声の掛け方や声の大きさ、表情など意識しながら行っている。長年関わっている方に対しても、馴れ合いになってしまい言葉が乱れてしまわないように職員同士で声を掛け合っている。ケース会議等を行う際も、なるべく他利用者のいない場で行っている。居間に飾る写真や広報誌も本人や家族に配慮しながら掲載するよう心掛けている。	職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように配慮して、やさしい雰囲気です。職員は法人の人権委員会などで研鑽を重ね、意識の向上に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が断言するような言葉で問い掛けたりせず、まずは利用者の言葉を聴き、本人の意思を優先するように意識している。自己表現が困難な方でも、これまでの関わりや、表情、仕草などから気持ちを汲み取るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつの時間は決まってはいるが、個々によって時間をずらし、本人に合わせている。食事・おやつ以外の時間の流れは決めておらず、その都度レクリエーションや散歩を行ったり、なるべく好む時間に入浴をしてもらったりして、個人に合わせた時間を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の方とも相談しながら、本人の好みの色やデザインの衣服を用意するようにしている。普段着と外出着を使い分け、季節に合わせた身だしなみを楽しんでもらえるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方にも行える範囲で調理の下ごしらえや、食事の盛り付けを手伝ってもらい、職員と協力しながら準備を行っている。又、利用者と一緒におやつ作りを行ったり、時には回転寿司や喫茶店へ出掛け、外食する機会も設けている。	併設特養の厨房から、朝食と昼食が届きます。夕食については、食材が届き、ホーム内で献立を作成し、調理を行っています。利用者は、配膳や下膳、盛り付け等の役割を担っています。また、利用者の意見や要望を聞き、手作りおやつやイベント食、外食会を開催しています。職員は、利用者が本人のペースで、食事を楽しむことができるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 毎食食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事摂取量を記入し、毎食確認している。食事の形態も個人に合わせて、固いものなどは刻み食で提供している。アレルギーや好みにも合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせて、口腔ケアの声掛けや部分介助を行っている。定期的に口腔ケア用具の確認も行い、必要なものは用意している。又、毎週水曜日に歯科受診があるため、義歯の不具合や、口腔内の悩みなどある方は医師へ相談している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でトイレへ通う事が困難な方、排泄の意思表示が困難な方は排泄チェック表を記入し、排泄の間隔やパターンを把握して、その方に合わせたトイレ誘導を行うようにしている。それに伴い、排泄の失敗を少なくする事で、なるべくパット等を使用しない方向に出来るように取り組んでいる。	排泄の記録をとり、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。利用者の仕草や表情から状況を判断し、声かけや誘導、見守りによる排泄支援を行い、トイレでの排泄を実施しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方は、すぐに服薬に頼るのではなく、オリゴ糖やヨーグルトを進めるなどして、自然排便がみられるようにしている。又、排便チェック表を記入し、排便の状況を確認して便秘予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があった際には、毎日でも入浴を行えるようにしており、又、なるべく本人が望む時間に入れるように調整している。介助が必要な方も、その時の体調や気分を考慮しながら、2日に1回は入浴を行えるようにしている。	利用者は、平均して週2～3回入浴を楽しんでいます。希望すれば毎日でも入浴ができます。菖蒲湯やゆず湯など、季節の行事風呂も実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人に合わせた寝具の用意や、室温の調整を行っている。夜間帯だけでなく、日中も状態に合わせて、横になって休む時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者1人ずつの服薬の内容や作用の記載された表を、すぐに確認できる所に置いている。服薬忘れのないよう、薬の管理方法を工夫したり、チェック表を記入している。服薬が追加された際には、状態の変化を観察し、ケース記録に記入したり、看護師へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方が自ら進んで食後の食器洗をしたり、洗濯物をたたむ際には数名の方が集まってきて手伝ってくれたり、自然と自身が出来る事を自ら行われている。利用者同士、協力し合う場面もみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	頻回な外出は出来ていないが、天候や気候に合わせて、数名ずつ近所や玄関先へ散歩へ出掛ける時間を作るようにしている。又、利用者からの要望があった際には、職員付き添いで近隣の店まで出掛け菓子類を購入している。家族の協力を得て、外出や外食される機会もある。	利用者の希望や体調に応じ、利用者家族の協力も得て、買い物や外食、地域行事等に出かけています。緑地公園に出かけた際、地域のガイドボランティアを利用し、公園内のハーブ園に立ち寄りました。また、日常的な外出支援が増えるよう、職員は、手段について発想の転換や工夫がないか、その可能性について話し合いを進めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理されている方は4名程いる。自己管理が困難な方は、普段は職員が管理しているが、行事や外出時には、職員が見守りながら、なるべく本人に行ってもらおうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	施設に設置している公衆電話を自由に使用してもらっている。自力で電話を掛ける事が困難な方でも、職員が電話を掛けて、いつでも家族や知人と話す事が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や時間に合わせて、居間や居室の明るさや室温を調整している。共用スペースの居間には季節の花や、行事等の写真、雑誌や新聞を置き、家具などの配置も、その時の状況に応じて、その都度配置替えを行っている。	利用者が、昼間に過ごす共有空間として、居間のほかに利用者同士や訪れた家族と寛げる談話室を設けています。談話室にはテーブルや椅子、ソファを配置し、雛人形飾り壇も飾る等、落ち着いた雰囲気があります。居間には季節の花や飾りがあり、行事写真や娯楽道具、ソファなども置かれています。居間は少し手狭ながら、利用者にとって優しく温かみのある家族的な生活空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際は1人1人の席を決めているが、それ以外の時間は自由に座ってもらっている。居間に2人掛けのソファを設置しており、利用者同士で座ってゆったりと過ごされている。居間以外にも、居室のある階の廊下に椅子を設置し、自由に使用してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や、入居されてからも、家族や本人と話しながら、本人が自宅で使用していた家具や馴染みのものを持ってきてもらい、なるべく自宅で過ごしている時に近い環境で生活出来るようにしている。又、身体の状態に合わせ、転倒などを防ぎ安全に過ごせるよう、その都度、居室内の配置を工夫している。	居室には、机や椅子、ソファ、衣装ケース、鏡台、家族の写真、塗り絵作品などが持ち込まれています。家族の訪問予定日をカレンダーに書き込み、訪問を楽しみにしている利用者がいます。また、家族の持ち込んだ生花や子どもの活躍を祈る七夕の短冊を飾り、好きな演歌歌手のCDを聞かためラジカセを持ち込む等、個性的な居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間や居室だけでなくトイレや浴室内も、なるべく自力で安全に入れるように置物の配置も状況に合わせて変えている。又、自力で活動出来るが、困惑されたり、安全を確保する為に、張り紙をしている。		